

平成29年度第2回千葉県博物館協議会会議 議事録

日 時：平成29年11月10日（金）13：30～15：30

会 場：千葉県立房総のむら 風土記の丘資料館 集会室

出席者：委 員 岡本委員（議長） 常光委員（副議長） 中原委員 柳谷
委員 鶴澤委員 齊藤委員 高橋委員 西田委員

博物館 美術館：田村館長、渡辺副館長 中央博物館：鎌田館長

現代産業科学館：平賀館長、金田副館長 関宿城博物館：

谷鹿館長 房総のむら：永沼館長、太田副館長

文化財課 植野学芸振興室長

1 開会

傍聴人なし

2 館内視察（商家町並み→細工の店附属施設→資料館）

3 館長挨拶（永沼房総のむら館長による）

4 協議事項

議長：房総のむらから連携事業について説明をお願いしたい。

房総のむら：説明

議長：房総のむらの連携事業についてご意見をいただきたいと思います。

委員：何回も訪問しています。様々な体験があり、子どもたちを1日中、安心して滞在させることができる施設であり、また雨天の際も、昼食場所を提供してもらえるなど、細やかな対応をしている印象を受けます。

委員：再現した建築物を使ってさまざまな体験事業を展開しており、興味深い施設です。トランジット客を案内する連携はとても良いと考えます。またホテル日航成田（以下日航）との連携も更に必要になってくるのではないかと、いかがでしょうか。

議長：成田空港から房総のむらまで、貸切バスや直行バスがあれば、どの位かかりますか。

房総のむら：約30分程度です。

委員：日航以外のホテルと連携は考えていないか。

房総のむら：日航のホームページをご覧いただければわかるのですが、トップペー

ジに房総のむらの紹介があり、日航としては、この連携をホテルの“売り”としたい考えがあるようです。

委員：日航の滞在者はある程度の富裕層ではないか。ヨーロッパではお金をかけずに過ごしたい人たちも多いと聞く、民泊やほかの成田にあるホテルへの売り込みも必要ではないか。また公共機関がバスを持って運営するのは難しいのか。

房総のむら：今年4月から日航と房総のむらとの間で、バスによるピストン輸送を行っています。公共機関がバスを持つのは予算面で難しいのが現状です。

委員：台湾・タイなどの国が多く訪れているとのことだが、それぞれの国で体験にどのような嗜好があるか。

房総のむら：アジア系とヨーロッパで差がみられます。例えば武家屋敷で書道の体験がありますが、アジア系の人には体験しません。一方、ヨーロッパの方には楽しんで体験してもらっているようです。また甲冑はアジア・ヨーロッパ関係なく楽しんでもらっています。個人的な感想ですが、アジア系はツアーで来て楽しんで帰ります。一方、ヨーロッパは個人で来て、熱心に体験しているように思います。

房総のむら：補足ですが、台湾が多いのは高級中学といういわゆる高校生の団体で、多くは茶道の体験をしています。

委員：WEBやホームページなども、魅力的で、見やすいWEBの活用が必要ではないか。

房総のむら：その点につきましては、千葉県の博物館情報システムの更新にあわせて、来年2月に変更する予定です。

議長：他にご質問はありますか。

委員：成田西陵高校・成田国際高校など印旛地区の高校が連携し、高校生目線で何かできればと考えます。佐倉南高校では県の教育政策課によるグローバル人材プロジェクトに参加しています。今後、千葉大学の留学生と交流会を行う予定です。日本文化を、歴史を通じて学べる交流会にできたらと考えております。また留学生はすぐSNSで発信する印象を受けます。プロジェクトと連携して大学とのタイアップ、高校とのタイアップが行えたらと思います。

房総のむらはコンパクトに日本文化と歴史を伝えるには適当な場所

であり、活用できればと思います。

房総のむら：当館では例年、11月3日のふるさとまつりで下総高校・成田西陵高校と連携し、野菜の苗や生産物の販売を行っています。成田国際高校は、12月24日にクリスマスコンサートを旧学習院初等科正堂で行う予定です。また姉妹校から何名もの留学生を招待し、甲冑体験や茶道で毎年利用しています。今回、台風で中止しましたが、稲穂まつりの中で、弓道の実演を行い、そこで佐倉東高校の弓道部と連携し、実施する予定でした。今後もこのような連携や声かけを印旛地区の高校にしてきたいと思います。

委員：私は高校教諭のESS研究部会に所属していて、これは全21校の教諭などによって構成されています。このESS部会での留学生の受入れにもってこいの施設であると思います。

委員：リピータが多いように感じます。また千葉市の学校はどの位来ているのか。同じく、テレビ等で見ますが、ロケの受け入れはどの程度しているのか。

房総のむら：千葉市内の来館学校数については後日ご報告いたします。傾向として、1番多く来館する学校は東葛飾地区で、次いで南葛飾・千葉市・北総と続きます。

議長：団体でくる小学生の滞在時間はどの位ですか。

房総のむら：前後の移動時間がありますので、館には9時半頃来て、午後2時半頃帰ります。

房総のむら：リピータに関してですが、お子さんが一度学校で来て良かったから、家族を連れて来館する例が多いです。県でも新入生向けに保護者の入場料が無料になるチケットを配っており、房総のむらとしても、このチケットの利用を進めているところです。またロケに関してですが、ホームページでも専用のページを用意し案内しています。博物館ですので、放送内容や企画が相応しいか吟味し、受け入れています。原則として休館日に撮影を行っています。

委員：例えば、何のロケで館内のここが使われたと案内することは可能ですか。

房総のむら：映画やテレビドラマの撮影では、まず難しいです。放送したものであ

れば可能であると思いますが、製作会社や関係会社等の関係で難しい状況です。

しかし、「インスタ映えする」場所をこんな映像が撮れますとか、またはこんな写真が撮れますよという形でロケ場所を紹介できたらと思います。

委員：1つの場所でいくつもの町並みを彷彿とさせるものがあります。例えば商家の町並みは佐原を基にし、総屋は成田にある大野屋旅館を再現しています。中でも風土記の丘資料館に向かうまでの森は軽井沢を彷彿とさせるように感じました。

また、より親しみやすいネーミングやキャッチフレーズを考えてみてはどうでしょうか。例えば「房総の軽井沢」など。森林を活かしたセラピーガーデンなども多く行われているようです。

今後の博学連携は病院・福祉施設との連携が必要ではないか。現在うつ病の治療に動物と触れ合う治療方法が取られており、そこに入り込む余地があるのではないか。

委員：周辺には大きな病院もあり、連携できる素地がある。また龍角寺と施設内の森林を活かした事業ができると思います。

房総のむら：斉藤委員ご指摘の博学連携についてです。安房の農家の先に今年4月、栄特別支援学校が開校しました。学校へもお誘いの話をしており、これから生徒さんが来館する予定になっています。ただ、館内は石が出ているところや路面が荒れているところがあるため、車イスの利用等に配慮して、敷物を引くなどして対応したいと考えております。

次に館内の森林の活用についてです。山野草などの植物とあわせて、猛禽類の生息地であり、それを狙うカメラマンも多く見られます。周辺に広がる自然も資源として捕え、活用していきたいと思います。2020年には、東京オリンピックが開催され、成田空港を介して、多くの利用者が訪れることが予想されますので、どのようにして、お客さんを引き寄せるかを考えていかなければならないと思います。それには外国人対応が急務ではないかと思います。

委員：サイクリングロードも近くにあり、成田から房総のむら間でレンタサイクルを導入し、ちょっと来てみる機会を作るのも一案ではないか。

委員：周辺に広がる森林を活かした伐採や整備の事業も演目として視野に入れていくものよいのではと思います。

副議長：斉藤委員ご指摘の通り、キャッチフレーズがあると親しめるのではないのでしょうか。このような多くの資源を持ち、魅力的なアイデアが多く出ているようですが、これらのアイデアを実現していくには人的サポートが必要であると考えます。

議長：房総のむらは指定管理者制度が導入されており、様々な制約のある中、事業を展開していくことは大変である。そもそも連携をどのように捉え、その方向性を館として示す必要があるではないか。これだけの資産を抱えている以上、館職員は新たな視点を生みだし、職員から発想を出す努力をしなければならぬと考えます。

他館さんは何かご意見ありますか。

美術館：「インスタ映え」・「コスプレ」この2つがポイントではないか。日本のサブカルチャーは世界的に浸透してきている。また、コスプレを商家町並みで行うことで多くのお客さんがくるだろう。

現代産業科学館：連携に関連し、昨年度房総のむら企画展「炭」の展示の出前展示を連携して行いました。また今年も、現代産業科学館・中央博物館・袖ヶ浦市郷土博物館の3館で連携し、スタンプラリーを展開しました。美術館ご指摘の「インスタ映え」を意識し、企画展「発酵」の会場入り口に「もやしもん」と醤油樽を置き、その前で写真が撮れるようにしました。

中央博物館：ALTの活用を図るべき。ALTは中国・フィリピン・インドなど東南アジアやヨーロッパの外国人がたくさんいて、日本の長所・短所を良く理解している人たちです。また先ほど房総のむらのお話で成田国際高校さんと連携しているそうですが、成田国際高校には留学生が10名以上います。こうした留学生とALTの活用で新たな事業ができると思います。

房総のむら：最後に議長ご指摘の指定管理者だからこそできた事業の一端を紹介したいと思います。フリーマガジンの『JP12』で、日本遺産「北総四都市江戸紀行」の特集号が刊行されました。指定管理者だからこそ関わった事業の1つであると考えます。

委員：ミュージアムショップの充実を図れないものか。

房総のむら：利用するお客さんが小学生から外国人までと幅広いことをふまえて検討しているところです。今後の課題として取り組んでまいります。

議長：それではお時間になりましたので議事を終了し、事務局に進行をお返しします。

5 諸連絡 次回案内等

6 閉会